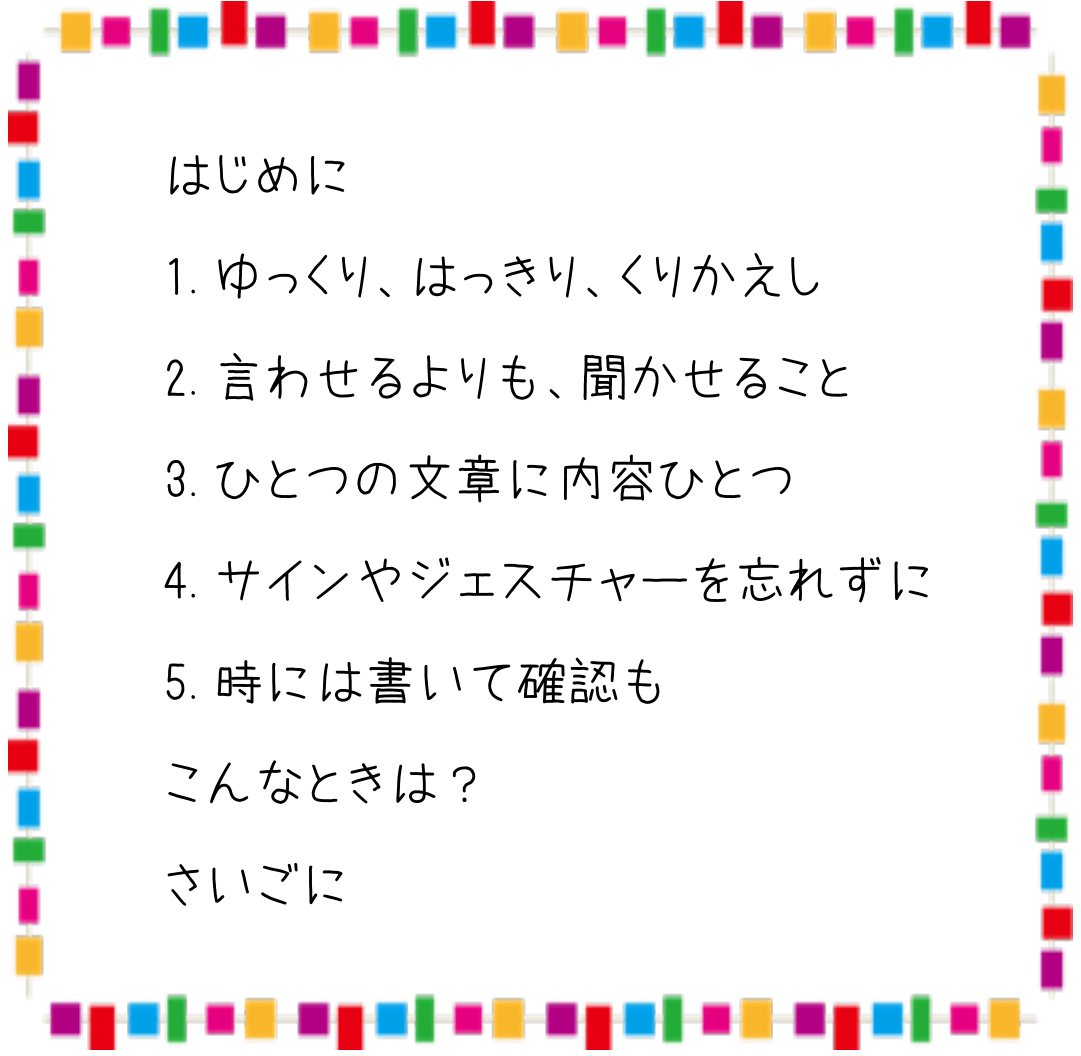


ダウン症のある子どもたちとの
楽しいコミュニケーションのために

ー今、私たちにできることー

言語聴覚士
石上志保



はじめに

1. ゆっくり、はっきり、くりかえし
2. 言わせるよりも、聞かせること
3. ひとつの文章に内容ひとつ
4. サインやジェスチャーを忘れずに
5. 時には書いて確認も

こんなときは？

さいごに

はじめに

多くのダウン症のある子どもたちの「ことば」の発達には、話し始めるのがゆっくりで、おしゃべりを始めても不明瞭で聞き取りづらい、助詞を使った文章を構成するのが難しい、などの特徴があります。

一方で、視覚的な情報を認識したり状況を理解したりする力は「ことば」の力よりも発達していることが多く、個人内の能力の差が大きいと言われています。

こういった特徴には、聞こえや、おしゃべりに関係する口腔の運動機能など様々な原因が関係していると言われていますが、特に影響が大きいのが、「ことばを聞き取る力」と、聞き取ったことばを「一時的に記憶する力(ワーキングメモリ)」の未熟さだと考えられます。

<ことばを聞き取る力>

聴力に問題はなくても、音声を聞き取る力が弱いことがあります。ひとつひとつの語音を正確に聞き取ることが難しいために、ことばを正確に覚えることや、真似ることが難しいのではないかと考えられます。



<ワーキングメモリ>

短時間、頭の中に情報を留めながら、同時になんらかの処理をする機能を「ワーキングメモリ」といいます。この機能が弱いと、「りんご」ということばを聞いた直後、復唱しようと思った時には「ご」しか頭に残っていない、という現象が起こります。ことばの一部しか復唱しない、話さない、という場合、ワーキングメモリの機能が弱い可能性があります。

1. ゆっくり、はっきり、くりかえし

話し言葉は一瞬で消えていきます。「ん？」と思ったときには、もう姿がありません。たとえば「り」「ん」「ご」と1音ずつなら上手に真似っこできるのに、「りんご」になると「ご！」だけしか復唱できないお子さんがいらっっしゃいます。「りんご」と聞き取ると同時に、最初の「りん」の音が頭のなかでぼやけてしまうような状態です。ことばを聞き取ること、ことばを記憶することが苦手な子どもたちにとっては、「いぬ」「くつ」といった2つの音で出来ている単語ですら、正確に聞き取って覚えるのが大変なのです。



Q: おしゃべりはできないけれど、「くつ」と言えば靴を、「いぬ」と言えば犬の絵を指差します。きちんと聞き取っているのでは？



A: もちろん、全く聞き取れていないわけではありません。語のイメージは聞き取り、全体像をなんとなく記憶することはできます。

私たちが、長い英単語を覚えるときのことを思い浮かべてみてください。聞けばわかるけれど、自分でははっきり言えない、そんな状態が少し分かっていただけなのではないでしょうか？

やってみましょう！

お子さんが積み木を積んでいます。

どんなことばをかけてあげるといいでしょうか？

A

積み木、積み木
赤い積み木、
三角だね。
黄色いのも、青い
のもあるね。



B

高いね！
高い高い！
もっと高い高い
できるかな。

積み木を積んで遊んでいるなら、より適切なのはBでしょうか。お子さんは、「積み木」そのものではなく、高く積み上がる様子に興味を持って遊んでいると思われるからです。もちろん、色や形に興味を持ち始めたお子さんには、色や形についての声かけも必要ですが、一度に多くの情報を伝えようとしない方がいいかもしれません。

場面によって、子どもの見ているもの、感じていることに一番近いと思われる言葉を選んで話しかけてみてください。



また、「ころころ」「ごしごし」など、擬態語、擬音語は、音のくりかえしが多く、意味もイメージしやすいため、記憶しやすいと言われています。「ごしごし、洗おうね。」など、成人語とあわせて聞かせるのも効果的です。

2. 言わせるよりも、聞かせること

意味はわかるけれど、ことばを聞き取って覚えるのが苦手な子どもたち。言っただらんと言われても、頭の中に言葉の輪郭がはっきり残っていないため、いくら考えても言葉は出てきません。言わせようとするより、聞かせることの方が大切です。聞き取る力をつけてあげれば、おしゃべりする力もついてくるのです。

やってみましょう！

「何したの？」と聞くより、「ブランコしたね。」
「これは何？」ではなく、「りんごだね。」と言ってあげてください。

そして、質問したときには、答えやすいような工夫を！



返事がなかったら、選択肢をあげてみましょう。



※質問に関連した写真やイラストを見せながら確認すると、やりとりが発展しやすいかもしれません。



3. サインやジェスチャーを忘れずに

サインやジェスチャーは、意味をわかりやすく伝えるのに役立ちます。話し言葉にサインを添えてみせることで、言葉と同時に意味も伝えることができるのです。また、言葉とサインを関連付けて記憶することによって、音声の記憶も残りやすくなります。

やってみましょう！

使いやすく、子どもたちが覚えやすいのは、毎日くりかえし行われる生活動作や、よく使うものについてのサインです。

<サイン例>

お風呂: 片手でもう一方の腕をこするor両手で体を洗う仕草

食べる: すぼめた指先を、口の横に軽く数回つける
orスプーンでたべる仕草

飲む: コップを口につけて飲む仕草

寝る: 両手をあわせて片方の頬にあて、首を傾げる

トイレ: 右手を開き、中指で左胸の上あたりをなでる

着る(はく): 上着を着る仕草、ズボンやくつをはく仕草

脱ぐ: 上着を脱ぐ仕草、ズボンを脱ぐ仕草

(手を)洗う: 手をこすり合わせて洗う仕草

くつ: 拳を作った両手の親指側同士を2回軽くぶつける



必ずしも、特定のサインを、決まった通りに使わなければならない、というわけではありません。お子さんとご家族の間で生まれたサインを使ってもいいのです。大切なのは日常的に使うことです。いくつかサインを使い始めたら、通園先の先生やスタッフにも伝え、一緒に使ってもらうようにしてください。サインを使うことで大人の発話もゆっくりになり、子どもにとって聞き取りやすくなるのも、サイン使用の大きな利点です。

Q: サインを使うと、おしゃべりをしなくなるのではないかと心配です。



A: 必ずサインと一緒に音声言語を聞かせていけば、サインを使っているからといっておしゃべりしなくなることはありません。徐々に音声を伴う頻度が増え、サインは消えていくことがほとんどです。

サインを数十語使うようになっても一向におしゃべりが始まらないという場合、その原因は、言葉の音を正確に聞き取ることが特に苦手なためかもしれません。音を聞き取る力を伸ばすために、復唱課題などを行うこともあります。

言語聴覚士にご相談ください。

4. ひとつの文章に内容ひとつ

もし、英語やフランス語など、自分がおしゃべりできない言葉で話しかけられたら？と想像してみてください。短いフレーズなら、状況をヒントに聞き取って理解できるけれど、長い文章は途中でわからなくなってしまうのではないのでしょうか？

聞き取るのが苦手、覚えておくのも苦手な子どもたちも同じです。

やってみましょう！



これからごはん食べるのに
そんなにおやつ食べたら
ごはんお腹に入らなくなるって
いつも言ってるでしょ！！

今からご飯よ。
おやつはおしまい。

おなか、いっぱいになっちゃう。



おばあちゃんが来たらすぐにお出かけするから、今のうちにトイレいっておきなさい！

おばあちゃんと
おでかけするよ。

さきに
トイレに行っておいで。

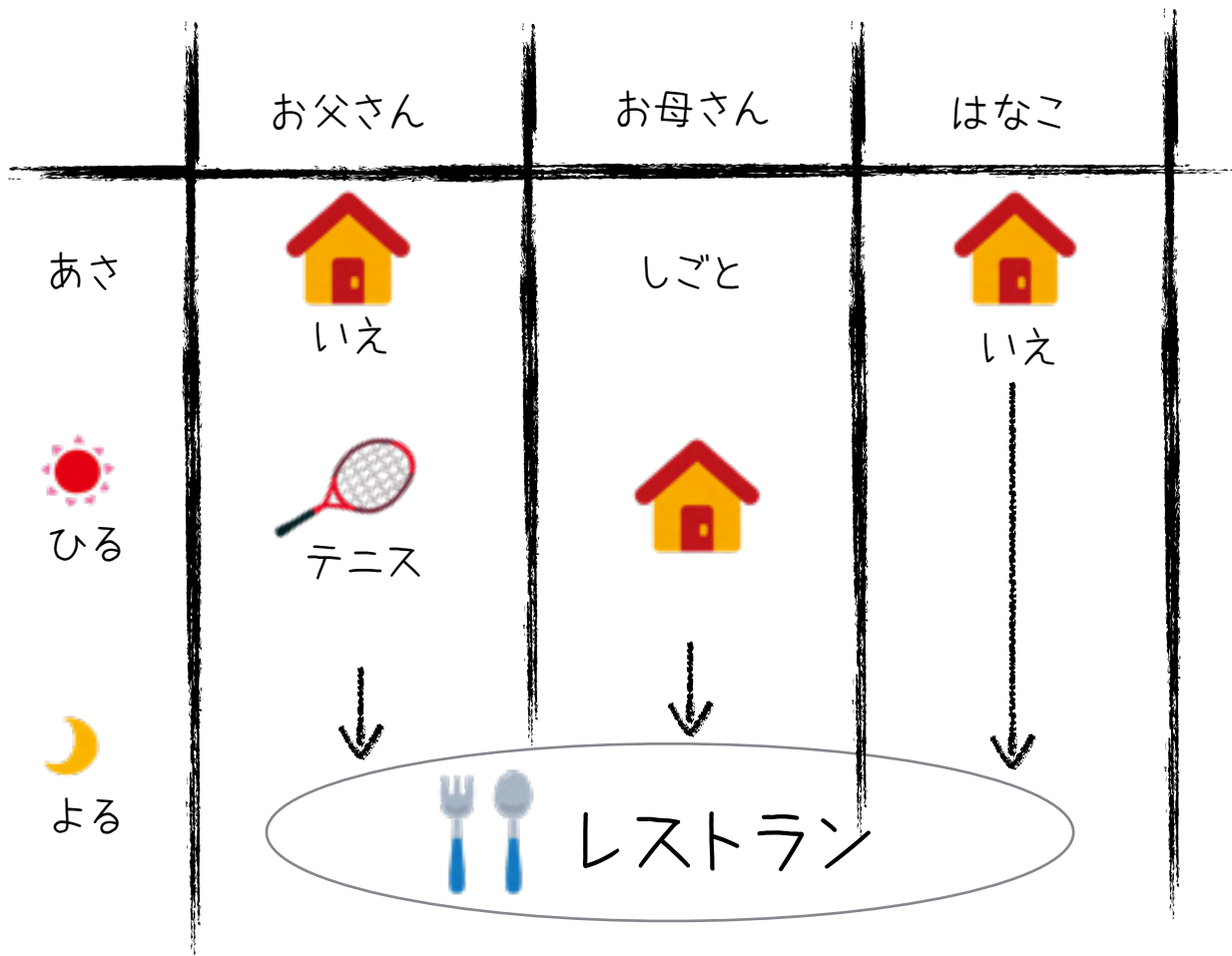


5. 時には書いて確認も

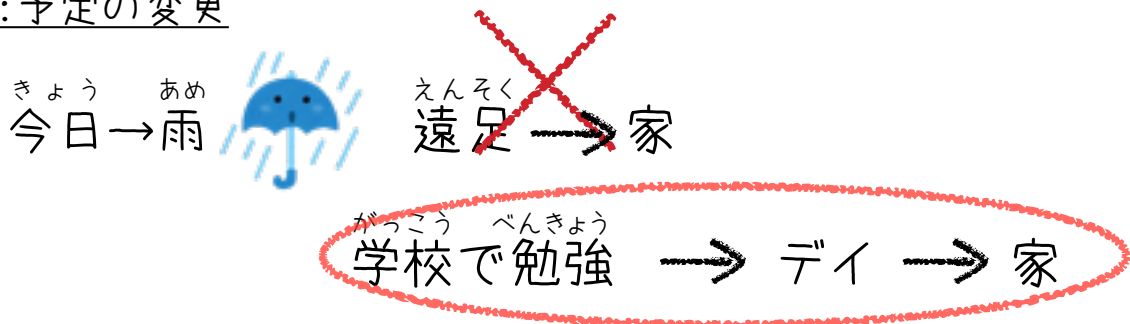
長い話をするとき、複雑な内容を伝えたいとき、いくら短く区切っても伝わりづらいことがあります。そんなときは、文字や簡単なイラストなどで内容を書いて見せながら説明します。

やってみましょう！

例1: 家族のスケジュール



例2: 予定の変更



こんなときは？

聞こえに問題があるとき

聴力に問題があるときにも、補聴器などで聴力を保障したうえで、手話やサイン、ジェスチャーを積極的に使いながら、ゆっくり、はっきり、繰り返し、働きかけてみてください。また、聴覚障害専門の支援学校の中には、乳幼児の親子に手話や簡単なサイン、関わり方の指導をしてくれるところもあります。地域の支援学校や、療育機関にお問い合わせください。



コミュニケーションが取りづらいつと感じたとき

聴力に問題はないはずなのに、呼びかけに反応しない、感覚遊びに没頭している、遊んであげようとしても一緒に遊べない、など、コミュニケーションに難しさを感じるお子さんもいらっしゃいます。感覚刺激を求めるあまり、外からの働きかけに気付きにくい状態にあるのかもしれませんが、また、こだわりや特定の感覚が苦手など、自閉症スペクトラムの合併が疑われる場合もあるかもしれません。

そんなときは、おもちゃなどを使わず、お子さんが声を出して笑うような体を使った遊びを一緒に楽しんでください。そして、1回ずつ目を見て「もういっかい？」と人差し指を立てながら聞いてみます。最初は聞いても反応が薄いかもしれませんが、続けているうちに、差し出した人差し指を握ったり、「っかい」と、ことばを真似しはじめたりするようになっていきます。

上記のような関わりに加えて、絵カードを使ったコミュニケーションが有効な場合もあります。お子さんに合わせた効果的な使い方など、お近くの言語聴覚士にご相談ください。



さいごに

おしゃべりはしているけれど、助詞を間違えることがあったり、時々やりとりがちぐはぐになってしまったりすることがある、という段階のお子さんもいらっしゃると思います。そんなお子さんにも、ことばの発達に合わせた単語や文章で、この冊子で紹介した話しかけ方を試してみてください。

私たちも、耳で聞いて助詞の使い分けなどの文法を学んできました。学校で英語を学んだように、理屈で勉強してきたわけではありません。ことばを聞き取って記憶する力が、どの発達段階の子どもたちにとっても大切な能力なのです。

ことばの発達を促すためには、ご本人が訓練を受けること以上に、私たち大人が話しかけ方を意識することのほうが重要かもしれません。毎日、一回だけでも、ゆっくり、繰り返し、短い文章で、ジェスチャーやサイン、文字を使ってわかりやすく話しかけること。そうすることで、日々のコミュニケーションが充実し、ことばの発達が促されます。

効果が実感できるのは少し先のことになるかもしれませんが、子どもたちの成長を、ゆっくり楽しみに待っていてあげてください。



お問い合わせはこちらまで

言語聴覚士 石上志保

st. shiho. ishigami@gmail.com